

OKAMURA REPORT

第82期 報告書 2016年4月1日 ▶ 2017年3月31日 証券コード：7994



okamura

株主の皆様へ

To Our Shareholders

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに当社第82期報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

当連結会計年度の国内経済は、企業収益は底堅さを見せ、雇用環境も改善傾向にあるものの、米国の新政権発足や英国のEU離脱問題の影響、中国及び新興国経済の景気下振れリスクなどにより、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、特徴ある製品づくりやトータル・ソリューション提案による新しい市場創出、各事業分野でのシェア拡大と新規顧客開拓に努めるとともに、生産性向上やコストダウンを推進してまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は236,776百万円（前期比1.7%減）となりました。損益面につきましては、営業利益は11,815百万円（前期比8.8%減）、



代表取締役会長
中村喜久男



代表取締役社長
中村雅行

経常利益は12,761百万円（前期比6.1%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は8,295百万円（前期比8.5%減）となりました。

今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

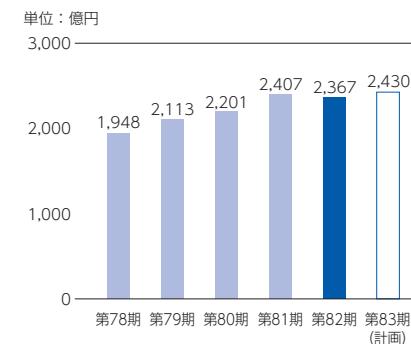
2017年6月

連結決算ハイライト

Consolidated Financial Highlights

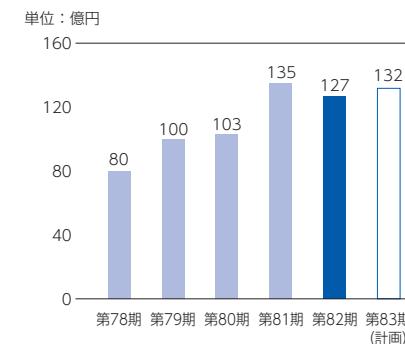
売上高

2,367 億円（前期比 1.7%減）



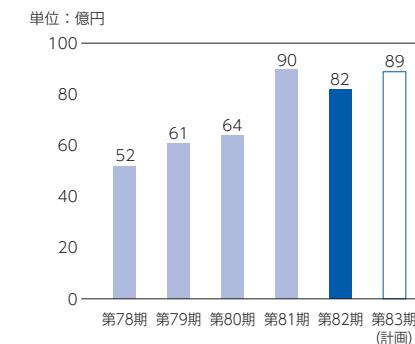
経常利益

127 億円（前期比 6.1%減）

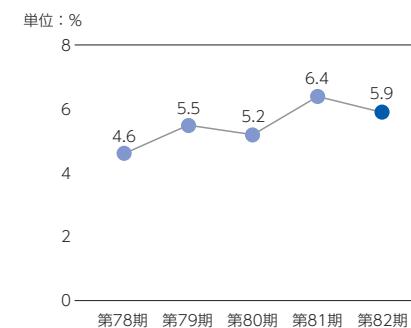


親会社株主に帰属する当期純利益

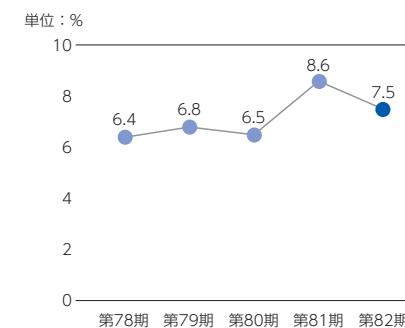
82 億円（前期比 8.5%減）



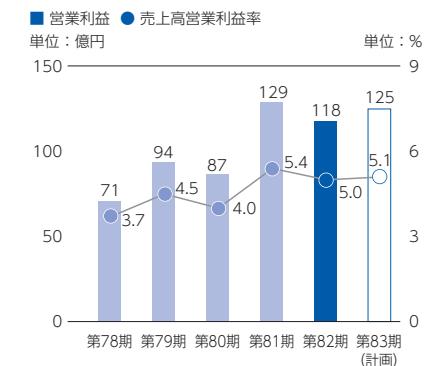
ROA（総資産経常利益率）



ROE（自己資本当期純利益率）



売上高営業利益率



2016
10月

- 「第3回R&Dセミナー」開催
- **「ORGATEC2016」出展** TOPICS 1
- 「HOSPEX Japan2016」出展

11月

- 「IFFT/Interiorlifestyle Living2016」出展
- 「第18回図書館総合展」出展
- 「オカムラブランドフェア2016」開催
- **「はたらくをミル。」「WORK MILL (ワークミル)」を発足** TOPICS 3
- 平成28年度「現代の名工(卓越した技能者)」を受賞
- 「オカムラブランドコンサート2016」開催

12月

- 「SEA DAY 02」開催
- ミーティングチェア「pirouette (ピルエット)」、フットレスト「pierpo (ピエルポ)」、待合ロビーチェア「filall(フィロル)」が「IAUDアワード2016」受賞
- 「エコプロ2016」出展
- 「オカムラフェア2016 in 大阪」開催
- 「CUE DAY 00」開催

2017
1月

- カンファレンステーブル「traverse (トラヴァース)」およびミーティングチェア「Lutz(ルッツ)」が、「JIDAデザインミュージアムセレクション vol.18」に選定
- 「オカムラフェア2017 in 仙台」開催
- 「オカムラフェア2017 in 浜松」開催

SECOND HALF TOPICS

2月

- 「オカムラフェア2017 in 福岡」開催
- 「オカムラフェア2017 in 広島」開催
- ミーティングチェア「pirouette (ピルエット)」およびロビーチェア「ALBROAD (アルブロード)」23APタイプがドイツの2017年度「iFデザイン賞」を受賞
- **「第51回 スーパーマーケット・トレードショー2017」出展** TOPICS 2
- 岡村製作所「CSR Report 2016」が「第20回環境コミュニケーション大賞」にて「優良賞(第20回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞)」を受賞

3月

- 「第46回 JAPAN SHOP2017」出展
- 「第25回 SECURITY SHOW2017」出展
- 「第23回 建築・建材展2017」出展
- 「第17回 JAPANドラッグストアショー」出展

TOPICS 1

「ORGATEC2016」出展

ORGATECは、オフィスビルやファシリティビルのプランニングから、インテリア、設備、マネージメントまで、あらゆる分野をカバーする国際家具見本市です。2年に一度、ドイツ・ケルンで開催され、専門店、卸売業者、建築家・インテリアデザイナーなどが世界中から集まります。今年2016年10月25日～29日に開催されました。

今回の出展では、日本国内に先駆け、新製品の「ContessaII (コンテッサ セコンダ)」を発表。「ジウジアーロ・デザイン」とのコラボレーションで生まれた「Contessa」のデザインを継承しながらも、「フィット」「強度」「バリエーション」「CMF」の4ポイントを見直し、大きくアップグレードしています。

昨今の海外オフィストrendを盛り込んだ展示内装にもこだわり、オカムラブランドをグローバルに発信する好機となりました。



TOPICS 2

「第51回 スーパーマーケット・トレードショー2017」出展

2017年2月15日～17日、幕張メッセで開催されました。今年は「楽しさ」と「効率化」が展示のテーマ。什器メーカー最大となる110コマのスペースに、商環境から物流システム、セキュリティにいたるまで、小売店が抱えるさまざまな課題解決のヒントを盛り込み、連日盛況を博しました。

TOPICS 3

「はたらくをミル。」「WORK MILL (ワークミル)」を発足

個人や組織がこれからの「はたらく」を描くために、働き方や働く場をさまざまなステークホルダーと共に考えていく活動「WORK MILL (ワークミル)」を発足しました。

「WORK MILL」の「MILL」は、「見る」、そして「挽く」という意味の「MILL (ミル)」が語源です。「WORK MILL」の活動としてウェブマガジンやビジネス誌発刊、共創空間の運営を通じて、過去・現在・未来の多様な「はたらく」にまつわる情報や知見を、さまざまな視点で見つめ、引き(挽き)出していきます。「WORK MILL」の活動に共感した人たちが、自らの「はたらく」を考え、自分たちで描いていくことで、豊かなワークスタイルやライフスタイルが実現することを目指します。



NEW PRODUCT 1

流麗なフォルムはそのままに、座り心地と強度をアップグレードした「Contessa」の新作
オフィスシーティング
「Contessa II (コンテッサ セコンダ)」

2002年の発表以来、世界中で好評をいただいている「Contessa」が、オカムラと「ジウジアーロ・デザイン」とのコラボレーションで生まれ変わりました。「Contessa」の独創的なデザインは踏襲しつつ、現代の多様化するワークスタイルに应运え、座り心地と強度を向上させました。ワークシーンに合わせて品揃えやカラーが充実し、大きくアップグレードしています。「Contessa II」は世界のオフィスへ向けて、新たな心地よさを提案します。



NEW PRODUCT 2

背中を立体的に包み込むフィット感で、ワンランク上の座り心地を追求
オフィスシーティング
「Fluent (フルーエント)」



「Fluent」は基本的な調節機能をはじめ、背中を立体的に包み込む「ラウンドフィットバック」や、座った瞬間の衝撃を吸収する「ブリッジベンディングシェル」などの新機能を搭載することにより、高いフィット性とこれまでにない快適な座り心地を実現しました。「Fluent」はコンパクト設計を追求し、肘付きタイプでも1000W片袖デスクや1400W両袖デスクにしっかりと収納できます。クロスのカラーバリエーションには「ペールピンク」を追加することで、さまざまなシーンを明るく彩ります。



NEW PRODUCT 3

中等・高等教育市場におけるアクティブラーニングをサポート
立ち姿勢サポートデスク
「stafit (スタフィット)」

「stafit」は、教室などで行われるさまざまな学習スタイルにフィットする、アクティブラーニング向け昇降デスクです。講義を聴くだけでなく、資料を調べる、グループで話し合う、発表するなど、さまざまな学習に合わせた姿勢をサポートします。

NEW PRODUCT 4

心地よい研究環境でラボワーカーをサポート
木質実験台
「POPLAR (ポプラ)」

「POPLAR」は、心地よい実験・研究環境を創造する、木目が美しい実験台シリーズです。実験台の脚部はパネル脚で下肢空間が広く、大型機器などを設置しやすく、実験や作業を快適に行うことができます。煩雑になりやすい実験機材や備品は、オフィスデスク用のワゴンやキャビネットへ整理して収納できます。「POPLAR」はシンプルで柔らかなデザインで、ラボワーカーの集中力や生産性の向上をサポートします。



NEW PRODUCT 5

働き方の多様化に対応するオプションを追加、
 業界初となる上下昇降デスク用スマートフォンアプリ「Posture (ポスチャー)」を公開
上下昇降デスク
「Swift (スイフト)」 **ラインアップを強化・アプリ公開**

「Swift」は、2014年の発表以来好評を得ている、天板が電動で昇降するデスクです。オフィスでの執務や会議において、座るだけでなく立つ姿勢を取り入れて業務に合わせた高さで働くことで、業務の効率化や生産性の向上につながります。

今回、「Swift」コンパクトタイプや、立った姿勢でも使いやすい上下昇降デスク専用ワゴンなど、オプションのラインアップを追加しました。

また、株式会社 QUANTUM、株式会社 博報堂アイ・スタジオと共同開発した、働く姿勢の変化をアシストする上下昇降デスク用スマートフォンアプリ「Posture (ポスチャー)」を公開しました。「Posture」は、「Swift」天板の高さをスマートフォン上でコントロールすることができます。「Swift」使用時の天板の高さを管理し、座り過ぎや立ち過ぎによる体への負担を軽減することで、快適で健康的なワークスタイルを実現します。





ヤフー株式会社 本社オフィス

「情報の交差点」から、 みんなで「！」を生み出すオフィス



来客エリアのエントランス・受付



来客エリアのミーティングスペース

旧赤坂プリンスホテルの跡地として注目を集める、東京ガーデンテラス紀尾井町。2016年10月、ヤフー株式会社の新社オフィスが紀尾井タワー5～24Fに誕生しました。

このオフィスで大きな話題になっているのが、コワーキングスペース「LODGE（ロッジ）」(写真・上)。社外の人でも受付すれば働く場として利用できる、遊び心に満ちた17Fの大空間です。新しいオフィス全体のコンセプトである「情報の交差点」を象徴しています。誰もが気軽に参加できるさまざまなイベントを毎日のように開催。テーブルやチェア、ソファなどが可動式になっているため、自由にレイアウトを変えることができます。また、カフェを併設しているため、打ち合わせをはじめ多目的に使えます。外部の異なる価値観と接し、刺激を受けながら、新しいものを生み出そうとする気運に満ちています。

18Fの来客エリアは、ポータルサイトYahoo! JAPANが提供しているサービスの6つのキーワードである「買う」「調べる」「知る」「集まる」「暮らす」「楽しむ」をコンセプトにエリア分けされ、表現されています。常に「UPDATE」という進化を続けるためには、働く場のデザインは「未完成」であるべき。そうした考え方もオフィスのインテリアに表現され、スケルトン天井、未仕上げの壁や床をあえて残し、施工時の書き込みなども見ることができます。



執務エリアの窓側

新しいオフィスの3つのデザインコンセプトは、社員の心身のコンディションを整える良質な環境である「Good Condition」、多様な人たちとの交わりによる「Open Collaboration」、そしてアクティビティに応じて改善可能な「Hackable」。フリーアドレスが導入され、社員はどのフロアでも仕事を行うことができます。執務エリアには、さまざまな形のデスクがジグザグに配置され、あえてオフィス内を歩かにくくすることで、偶発的なコミュニケーションを誘発できるようにしています。執務エリアの窓側には打ち合わせやリラックスしながらの業務に利用できるフリースペース、個人のソロワークに利用できる集中ブースなども設置。畳敷きのスペースやマッサージチェアなども執務エリア内に用意。安心して働ける環境が、社員一人ひとりのパフォーマンスや、仕事の生産性をさらに高めています。



執務エリア

社員食堂「BASE」、社内カフェ「CAMP」では「1HOUR+（ワンアワー・プラス）」というコンセプトを掲げています。エリアごとにデザインを変えた空間が、リフレッシュしながら新しい人や考え方と出会うきっかけを生み出しています。



社員食堂「BASE11」



社員食堂「BASE11」

DATA

所在地	東京都千代田区紀尾井町1-3 東京ガーデンテラス紀尾井町 紀尾井タワー5～24F
オフィス対象面積	約66,000㎡
インテリア竣工	2016年9月

事業別セグメントの概況

Performance Results by Segment

オフィス環境事業

Office Furniture



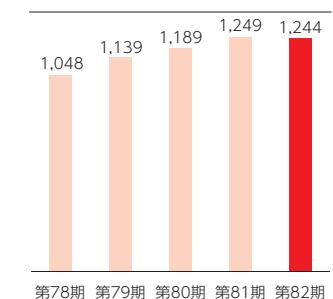
オフィス環境事業につきましては、年度前半は都心を中心とした大規模オフィスビルの安定的な供給にともない、オフィス需要は堅調に推移したものの、年度後半は、大規模オフィスビルの供給は短期的な端境期に入り、大型移転案件の減少が見られました。このような状況のもと、オフィスでの働き方改革や健康への関心の高まりに対する新しいオフィス環境づくりを積極的に提案するとともに、業績が好調な企業や学校、図書館や地方自治体等のオフィス周辺市場への積極的営業活動に努め、前連結会計年度に比べ、売上高、利益とも横ばいとなりました。

この結果、当セグメントの売上高は、124,446百万円(前期比0.4%減)、セグメント利益は、8,879百万円(前期比3.3%減)となりました。



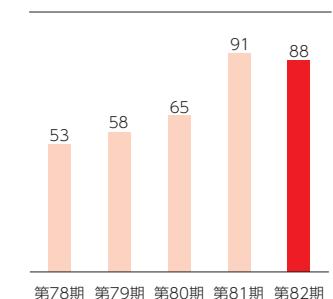
売上高

単位：億円



営業利益

単位：億円



商環境事業

Store Displays



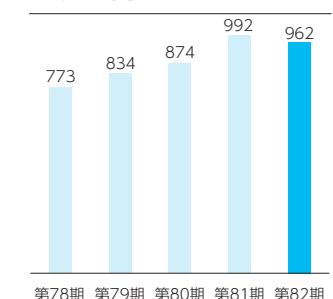
商環境事業につきましては、食品スーパー、ドラッグストアなど業績が好調な小売業界を中心に、店舗什器、カート機器、セキュリティー製品など総合力を活かしたトータル提案を強化し、冷凍冷蔵ショーケースのシェアアップやコスト低減に注力してまいりました。しかし、小売業界の業態間競争、業界再編等による新規出店、既存店の改装需要の縮小、延期などの影響を受け、前連結会計年度に比べ、売上高、利益とも減少いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は、96,220百万円(前期比3.0%減)、セグメント利益は、3,034百万円(前期比13.7%減)となりました。



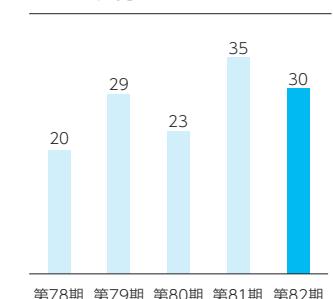
売上高

単位：億円



営業利益

単位：億円



その他(物流機器事業他)

Material Handling Systems and Others



物流機器事業につきましては、食品、医薬、通販などの有力分野や自動倉庫の拡販に注力するとともに、他事業とのコラボレーションを強化し、提案力と優位性のある製品の強みを最大限に活かした積極的な営業活動に努めました。

この結果、当セグメントの売上高は、16,109百万円(前期比3.0%減)、セグメント損失は、98百万円(前期は262百万円のセグメント利益)となりました。



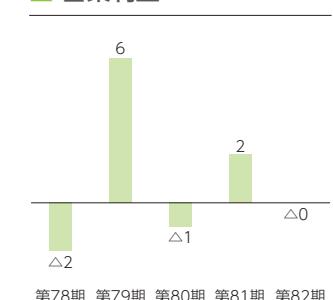
売上高

単位：億円



営業利益

単位：億円



連結財務諸表(要約)

Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表

科目	当期		前期	
	2017年3月31日現在		2016年3月31日現在	
資産の部				
流動資産	111,322	115,032		
現金及び預金	26,536	28,933		
受取手形及び売掛金 1	64,565	66,318		
商品及び製品	10,113	9,191		
仕掛品	1,467	1,483		
原材料及び貯蔵品	4,384	4,435		
その他	4,255	4,668		
固定資産	107,419	102,453		
有形固定資産 2	56,273	51,350		
建物及び構築物	15,268	14,897		
土地	28,072	24,151		
その他	12,931	12,301		
無形固定資産 4,523	5,283			
のれん	18	176		
その他	4,505	5,107		
投資その他の資産 46,622	45,819			
投資有価証券	32,632	32,095		
退職給付に係る資産	6,627	5,998		
その他	7,362	7,724		
資産合計	218,741	217,485		

(単位:百万円)

科目	当期		前期	
	2017年3月31日現在		2016年3月31日現在	
負債の部				
流動負債	70,362	69,425		
支払手形及び買掛金	30,007	32,105		
電子記録債務	16,398	15,892		
短期借入金	6,147	6,066		
1年内返済予定の長期借入金	1,115	2,341		
1年内償還予定の社債	5,000	—		
その他	11,693	13,019		
固定負債 34,129	39,569			
社債	5,000	10,000		
長期借入金	6,227	6,041		
退職給付に係る負債	15,674	15,861		
繰延税金負債	2,967	3,344		
その他	4,260	4,322		
負債合計 104,491	108,994			
純資産の部				
株主資本 103,829	98,409			
資本金	18,670	18,670		
資本剰余金	16,762	16,762		
利益剰余金	70,819	65,392		
自己株式	△ 2,422	△ 2,415		
その他の包括利益累計額 9,860	9,587			
非支配株主持分	559	494		
純資産合計 114,249	108,491			
負債純資産合計 218,741	217,485			

連結損益計算書

科目	当期		前期	
	2016年4月 1日から 2017年3月31日まで		2015年4月 1日から 2016年3月31日まで	
売上高	236,776	240,794		
売上原価	162,777	167,301		
売上総利益 73,998	73,493			
販売費及び一般管理費	62,182	60,532		
営業利益 11,815	12,960			
営業外収益	1,667	1,316		
営業外費用	722	687		
経常利益 12,761	13,590			
特別利益	25	211		
特別損失 3	789	173		
税金等調整前当期純利益 11,996	13,627			
法人税、住民税及び事業税	3,862	5,009		
法人税等調整額	△ 237	△ 498		
当期純利益 8,371	9,116			
非支配株主に帰属する当期純利益 76	48			
親会社株主に帰属する当期純利益 8,295	9,067			

(単位:百万円)

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当期		前期	
	2016年4月 1日から 2017年3月31日まで		2015年4月 1日から 2016年3月31日まで	
営業活動による キャッシュ・フロー 4	11,439	13,870		
投資活動による キャッシュ・フロー 5	△ 9,153	△ 6,896		
財務活動による キャッシュ・フロー 6	△ 4,184	△ 2,114		
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 187	△ 121		
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△ 2,085	4,739		
現金及び現金同等物の 期首残高	27,547	22,808		
現金及び現金同等物の 期末残高	25,461	27,547		

(単位:百万円)

POINT

1 受取手形及び売掛金

前連結会計年度末から1,753百万円減少し、64,565百万円となりました。

2 有形固定資産

土地及び建物の取得等により、前連結会計年度末から4,922百万円増加し、56,273百万円となりました。

3 特別損失

当社グループが所有する生産設備等、事業用資産及び社員寮について、減損損失787百万円を計上いたしました。

4 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益11,996百万円、減価償却費5,257百万円、売上債権の減少額1,753百万円等による増加と、仕入債務の減少額2,086百万円、法人税等の支払額4,894百万円等による減少の結果、11,439百万円の資金増加となりました。

5 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得9,168百万円、無形固定資産の取得796百万円等による減少の結果、9,153百万円の支出となりました。

6 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の減少額1,027百万円、親会社による配当金の支払額2,865百万円等による減少の結果、4,184百万円の支出となりました。

配当金についての基本方針

当社は、株主の皆様への適切な利益還元を経営の重要政策のひとつとして位置付けております。

利益配当政策につきましては、業績に応じた適正な利益配分を目指すとともに、財務状況、将来の事業展開及び内部留保などを総合的に勘案し、安定配当の維持にも努めてまいりたいと考えております。

配当金

82期
期末
(年間24円)

単位:円
■ 期末 ■ 中間



※ 第81期期末につきましては、創立70周年記念配当4円を含みます。

会社情報 (2017年3月31日現在)

Corporate Data

株式の状況

発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	112,391,530株
株主数	6,321名

所有者別株式分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,252	8.39
オカムラグループ従業員持株会	6,397	5.80
三菱商事株式会社	6,300	5.71
明治安田生命保険相互会社	5,437	4.93
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,408	4.90
新日鐵住金株式会社	5,313	4.82
三井住友海上火災保険株式会社	5,295	4.80
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,805	4.36
株式会社横浜銀行	4,076	3.69
オカムラ協会持株会	3,717	3.37

(注) 持株比率は、自己株式(2,065,155株)を控除して計算しております。

会社概要

設立	1946年7月
資本金	186億円
登記上本社	横浜市西区北幸二丁目7番18号
本社事務所	横浜市西区北幸一丁目4番1号
従業員数	3,216名

取締役及び監査役 (2017年6月29日現在)

地位	氏名	担当または主な職業
代表取締役社長	中村 雅行	
専務取締役	佐藤 潔	管理本部長
専務取締役	岩下 博樹	マーケティング本部長
専務取締役	菊池 繁治	オフィス営業本部長
常務取締役	岩田 寿一	ヘルスケア事業本部長
常務取締役	土志田 貞一	企画本部長
常務取締役	山本文雄	商環境事業本部長
取締役(社外)	西浦 完司	三菱商事(株)常務執行役員金属グループCEO
取締役(社外)	浅野 広視	トア再保険(株)取締役
取締役(社外)	伊藤 裕慶	(株)キーストーン・パートナーズ監査役
取締役	小熊 誠次	デザイン本部長
取締役	金子 肇	海外営業本部長
取締役	山本 健一	生産本部長
取締役	井上 健	商環境事業本部東日本営業本部長
取締役	田尻 誠	物流システム事業本部長
取締役	牧野 博	テレコム営業本部長
取締役	酒徳 真司	商環境事業本部西日本営業本部長
取締役	河野 直木	オフィス営業本部首都圏営業本部長
監査役	守分 宣	
監査役	荒谷 克典	
監査役(社外)	鈴木 祐一	弁護士
監査役(社外)	岩本 繁	公認会計士

工場施設

追浜事業所
(神奈川県横須賀市)

富士事業所
(静岡県御殿場市)

(株)関西岡村製作所
(大阪府東大阪市)

鶴見事業所/シーダー(株)
(神奈川県横浜市鶴見区)

砂畑産業(株)
(東京都足立区)

つくば事業所
(茨城県つくば市)

御殿場事業所
(静岡県御殿場市)

(株)山陽オカムラ
(岡山県高梁市)

(株)富士精工本社
(石川県能美市)

杭州岡村伝動有限公司
(中国浙江省臨安市)

高島事業所
(山形県東置賜郡高島町)

中井事業所
(神奈川県足柄上郡中井町)

(株)エヌエスオカムラ
(岩手県釜石市)

Siam Okamura Steel Co., Ltd.
(Bangyaparak, Phrapradaeng, Samutprakarn, Thailand)

東莞誠美家具有限公司
(中国広東省東莞市)

関係会社

(株)関西岡村製作所

(株)オカムラ物流

(株)オカムラ サポート アンド サービス

(株)エヌエスオカムラ

(株)山陽オカムラ

(株)エフエム・ソリューション

(株)ヒル・インターナショナル

シーダー(株)

(株)富士精工本社

セック(株)

(株)Td Japan

(株)オカムラ ビジネス サポート

砂畑産業(株)

Okamura International
(Singapore) Pte Ltd

上海岡村家具物流設備有限公司

Salotto (China) Limited

Siam Okamura Steel Co.,Ltd.

Siam Okamura International Co.,Ltd.

杭州岡村伝動有限公司

PT. Okamura Chitose Indonesia

(他14社 合計34社)

主なショールーム・博物館

オカムラ ガーデンコートショールーム
(東京都千代田区紀尾井町)

オカムラ 仙台ショールーム
(仙台市青葉区花京院)

オカムラ 名古屋ショールーム
(名古屋市中村区名駅)

オカムラ 大阪ショールーム
(大阪市北区大深町)

オカムラ 福岡ショールーム
(福岡市博多区博多駅前)

オカムラVitra店舗用什器ショールーム
(東京都千代田区内神田)

オカムラいすの博物館
(東京都千代田区永田町)

■ 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月下旬
基準日	3月31日
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人／ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  0120-232-711 (フリーダイヤル)

(ご注意)

株式に関する手続きのお届出先・ご照会先について

- 証券会社に口座を開設されている株主様は、口座を開設された証券会社等にお問合せください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記、特別口座の口座管理機関の連絡先にお問合せください。

▶ インターネットでおカムラの最新情報をご覧ください。

オカムラウェブサイト <http://www.okamura.co.jp/>

オカムラ

検索

よい品は結局おトクです

オカムラ
株式会社 岡村製作所

〒220-0004
横浜市西区北幸二丁目7番18号
TEL : 045-319-3401 (代)

